

- 新潟市西蒲区では、農業者の高齢化とほ場整備の進展に対応し、地域農業の担い手となる企業的な組織経営体の育成が急務である。
- このため、中之口地区の羽黒集落をモデル集落に設定し、**組織経営体の栽培管理の効率化や経営の複合化とともに、集落農業ビジョンの作成支援を通じて、組織経営体などへの農地集積を誘導**
- その結果、先導的な経営体の育成と集落の活性化が進展

具体的な成果

普及指導員の活動

1 先導的な経営体を育成

- 組織経営体（有）アグリビジネス羽黒の規模拡大と経営の複合化

① **経営面積（H23→H25）：38.1ha→43.2ha**

② **園芸作物の導入**

・定着（H23→H25）

○ **えだまめ**

63a→63a

○ **オータムポエム**

0→5.4a

○ **春ブロッコリー**

0→10a

○有アグリビジネス羽黒の経営面積



2 モデル集落（羽黒）の活性化

- 「集落農業ビジョン」の作成と実践

① **1法人と4個別経営体を担い手として認知**

② **担い手への農地集積に向けた利用調整を検討する仕組みを構築**

③ 集落内の5経営体が新潟市西蒲区の人・農地プランの担い手名簿に登載

④ 4人の女性がグループを結成し、新規に野菜の栽培を開始

⑤ 集落で田植えや稲刈り体験、BBQ大会を開催

3 周辺地区への成果波及

- 生産組織や法人の新規設立

① 福島集落で**営農組合が設立**され、この**組合を核としたビジョンを策定**

② 牧ヶ島集落で**生産法人が設立**され、この**法人が中心の地域営農体制を確立**

平成24年

- モデル経営体の経営体質強化を支援

- ・ 水稻栽培管理方法の改善指導
- ・ 施設・機械の効率利用の検討を支援
- ・ えだまめの生産安定技術指導

- モデル集落（羽黒集落）の活性化

- ・ 集落農業の維持・発展に向けたビジョンづくりを啓発
- ・ **推進委員会の設立とワークショップの開催等により、ビジョンづくりを支援**

平成25年

- モデル経営体の経営体質強化

- ・ **水稻乾燥調製施設の導入支援**
- ・ オータムポエム、ブロッコリーの導入支援
- ・ GAPの導入支援

- モデル集落（羽黒集落）の活性化

- ・ 農地集積検討会の開催支援
- ・ 園芸導入検討会の開催支援
- ・ **住民交流会の開催支援**

- 周辺地区への成果波及

- ・ **担い手組織の設立支援**
- ・ **集落ビジョンの策定支援**

普及指導員だからできたこと

- ・ **専門的知識に基づく技術指導**により、農業者との**信頼関係を構築**したことで、新技術や新規作物の導入ができた。
- ・ **普及指導員間のネットワーク**を駆使した先進事例の収集と提供により、農業者の積極的な取組を可能にした。
- ・ 関係機関をまきこんだ地区内の話し合いを促し、合意形成に結びつけた。

活動期間：平成 24 ～ 25 年度

1. 取組の背景

管内（新潟市西蒲区）では、農業者の高齢化が進んでおり、地域農業の担い手となる組織経営体の育成が急務である。また、農業生産法人 41 法人のうち、93 %は 50ha 未満の中小規模であり、50ha 超規模の企業的経営体の育成が必要とされる。

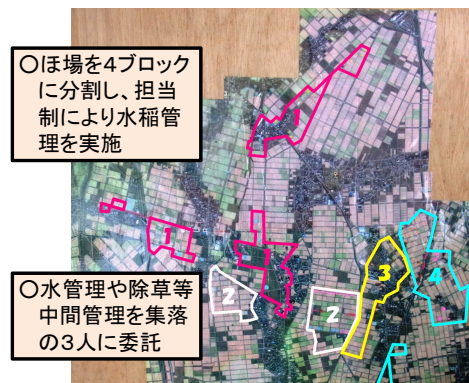
西蒲区は、県内でもほ場整備が遅れていたが、近年、整備が進展しており、これを契機とした組織経営体の育成と地域農業システムの構築が急務である。

そこで、平成 24 年度から、モデル集落とモデル経営体を選定・支援し、その成果を周辺集落到に波及させる活動に取り組んできた。

2. 活動内容（詳細）

（1）モデル経営体（㈱アグリビジネス羽黒）の経営体質強化

- ・ 水稻の栽培管理方法の改善に向けて、ほ場を 4 ブロックに分割した栽培管理の担当制導入や、水管理や除草等の中間管理の外部委託による適期管理の徹底等を支援した。
- ・ 将来の水稻面積増加を見越し、乾燥調製施設など所有施設・機械の効率化の検討を支援した。
- ・ えだまめの生産安定、オータムポエムと春ブロッコリーの新規導入等、園芸複合化を支援した。
- ・ 販売管理や栽野菜培技術について、講座形式で分かれ従業員の資質向上を支援した。
- ・ GAP 手法の導入による農場運営の適正化を支援した。（26 年 10 月に JGAP 認証取得）

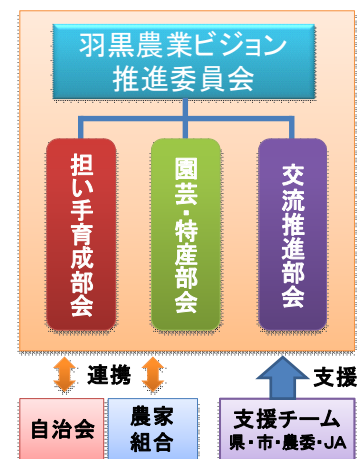


（2）モデル集落（羽黒集落）の農業ビジョン策定・実践

- ・ 営農委員会や自治会において、集落農業の維持・発展に向けて、将来像を示したビジョンづくりの重要性を説明した。
- ・ 「羽黒農業ビジョン推進委員会」の設置を支援し、村づくり専門家によるワークショップにより、理念と基本方針を定め、参加者の目的意識の共有化を図った。
- ・ 同委員会では、担い手育成、園芸・特産、交流推進の 3 部会を設置し、延べ 11 回の検討と 2 回の先進地研修を行い、ビジョンづくりの具体化を推進した。

（延べ参加人数 240 人）

- ・ 担い手への農地集積に向け、集落内検討会開催を支援した。
- ・ 経営の複合化に向け園芸導入検討会を開催し、新規園芸品目導入を支援した。



- ・集落活性化に向けて世代間の交流を図るため、地域交流会の開催を支援した。
- (3) 周辺地区への波及（福島集落・牧ヶ島集落）
- ・地域の担い手となる組織づくりを支援した。（福島：集落営農組織、牧ヶ島：法人）
 - ・集落ビジョンの策定を支援した。

3. 具体的な成果（詳細）

項 目	H23 実績	H24 実績	H25 目標 (A)	H25 実績 (B)	達成度(%) (B/A)
先導的経営体の経営面積 (ha)	34.9	38.1	44.9	43.2	96
先導的経営体の育成数	0	0	1	1	100
地域農業ビジョンの策定数	0	1	3	3	100
人・農地プランの作成数	0	1	1	1	100

(1) ㈫アグリビジネス羽黒を先導的な経営体に誘導

ア ㈫アグリビジネス羽黒では、集落農業ビジョン策定後、集落内外から利用権設定があり、平成 25 年度の経営面積は 43.2ha（前年対比 5.1ha 増）とほぼ目標を達成した。

イ 新規ライスセンターの稼働に伴う作業計画が策定された。

ウ 園芸作物の導入・定着が進展した。（以下、H23 実績→H25 実績）

露地えだまめ（63a → 63a）、オータムポエム（0 → 5.4a）、春ブロッコリー（0 → 10a）

(2) 羽黒集落の農業ビジョン策定・実践

ア 平成 25 年 2 月に「羽黒集落農業ビジョン」が完成し、集落農業ビジョン発表会において、1 農業生産法人と個別 4 経営体が担い手として認知された。

イ 担い手への農地集積に向け、農業者自らが農地の利用調整を検討する仕組みができた。

ウ 5 経営体が新潟市西蒲区の人・農地プランの担い手名簿に登録された。

エ 4 人の女性グループ「羽黒すみれ会」が結成され、パイプハウス（150 m²）で新規野菜の栽培を開始した。

オ 集落の活性化に向けた地域交流事業として、子供会と連携した田植え、稲刈り体験やバーベキュー大会が地域主体の企画で開催された。



(3) 周辺地区への波及

ア 福島集落では、9 月に集落営農組織「ふくじま集落営農組合」が立ち上がり、それを核とした集落農業ビジョンが策定された。

イ 牧ヶ島集落では、1 月に農業生産法人「(農)牧ヶ島ファーム」が設立され、それを核とした地域営農体制が確立した。

4. 農家等からの評価・コメント

(西蒲区羽黒集落関係者)

(K・S氏) 野菜を始める際に足繁く通っていただき、良いアドバイスをもらった。

(A氏) ライスセンター建設に伴う補助事業の活用には、全面的な協力をいただいた。

(K・N氏) 集落が一体化する良い機会を与えていただいた。暗い見通しがビジョン策定を通して明るくなった。

法人の管理体制改善や JGAP 認証取得の取組など自分の会社のように協力いただいた。

(K・S氏) 自治会としても、ビジョンづくりやイベントの実行を通して世代間のコミュニケーションが図られる機会を与えていただいた。

(Y氏) 県内外の優良事例を紹介してもらい、安心感を持って参加することができた。



稲刈りイベント(9月)

5. 普及指導員のコメント

(巻農業普及指導センター 専門普及指導員 澤田勝則)

- ・ 羽黒地区には(有)アグリビジネス羽黒の他に法人組織が存在しないことから、地域農業の担い手として地域を牽引して欲しいという思いがあった。
- ・ それには、規模拡大による経営基盤の強化が避けられない課題であった。
- ・ このため、地域から信頼を得て農地が集積できるように、水稻の収量・品質の安定に向け、栽培管理の改善や施肥方法の見直しの他、JGAPの導入や経営の複合化を支援した。
- ・ その結果、水稻の収量・品質の安定と作業の効率化とともに、冬期間の水稻育苗ハウスを利用したオータムポエム等の導入を図ることができた。さらに、地域からの信頼を得たことで、水稻作付面積を目標とした約50haにすることができた。(H27年度)。
- ・ 地域への貢献を果たすという組織の発展目的を、組織の構成員と共有したこと、技術的な課題をひとつひとつ具体的に解決したことが組織と普及員との信頼関係の構築につながり、目標を達成することができた。

6. 現状・今後の展開等

(1) (有)アグリビジネス羽黒等の担い手の経営発展

- ・ 水稻、園芸の収量・品質の向上
- ・ 園芸の生産拡大、米の直売等による経営の6次産業化
- ・ 効率的な農地の集約・集積

(2) 羽黒集落農業ビジョンの着実な実践と地域の活性化

(3) 波及地区における組織の運営支援と地域ビジョンの実践